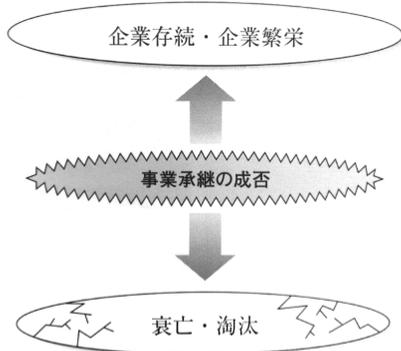


# かなめ流通G <sup>グループ</sup> ホットライン

今まさに円滑な事業継承（世代交代）の実現化を求めている企業が少なくない。クリーニング業界もまさにそうである。会社の存続のためには事業継承は最も大事な事業といっても過言ではないだろう。

## I 事業継承の拙策（せつさく）が会社を潰す

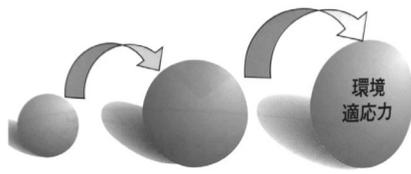
企業は潰れる様に出来ている。企業存続へ向けた努力を怠れば、企業はこの世から消え去っていく。潰れる企業には、それぞれの理由が明確にある。ただ、そこに共通する真相は、「企業の存在価値を失うことによる社会からの淘汰」だといえよう。



## II 事業継承とは「環境適応力」を引継ぐこと

### ①環境適応力の承継無くして企業存続なし

事業継承とは「企業の存在価値を引継ぐ」ことである。変化していくマーケットをとらえ、自社の強みを失うことなく受け継ぎ、磨き、発展させる大きな節目・接点となるものが、事業継承の姿であろう。



ここに事業継承の本質がある。資産の大きさや収益力の強さは事業継承において必要条件ではあるが、充分条件ではないのであろう。世の中は常に変化していく。企業存続への大きな節目となる事業継承は、社会にあって存在価値を発揮し続ける「環境適応力の継承」が行われてはじめて成り立つのであろう。企業継承が企業存続・発展へのチャンスにもなり、ピンチにもなる理由はここにあるのであろう。事業継承成功の原理原則における最大の判断基準は、「企業価値を生み続ける環境適応力の継承」におこななければならないのであろう。

### ②変化し適応していくための3つの継承

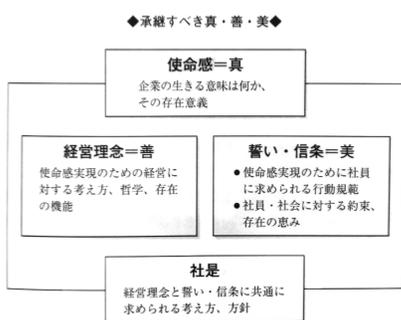
企業存続・発展を実現させる環境適応力を次代へ伝えていくためには、次の3つが確実に受け継がれて行かなければならないであろう。

#### ◎企業の魂「真・善・美」

企業の本質は「真・善・美」を求めていき続けることであろう。

「真」とは、自社の生きる意味、目的は何か？ということ。その「使命感、存在の意義」のことであろう。

「善」とは、その使命感実現のための経営に対する「考え方、哲学」のことであろう。



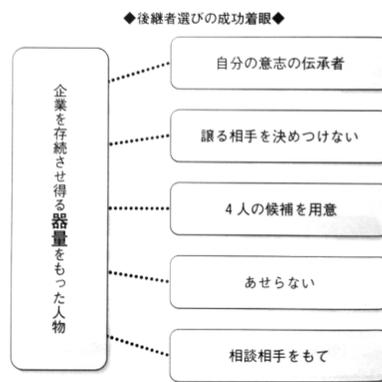
「美」とは、使命感実現のための社員に求められる「行動規範」、社員・社会に対する「約束・存在の恵み(分配)」のことであろう。

## 後継者づくりの成功原則 ～誰を、どう育て、いかに譲るか～

### I 後継者は器量で選べ

#### ①最大の選択基準は「企業の存続」

トップとなる人物には「森全体を見る」能力、リーダーシップ、人望が不可欠である。血縁は問題ではなく、あくまでも企業を存続させる器量と人となりとなる。また、譲る相手は3つの選択しかない。「身内の中・社員の中・外部から迎える」の中からしか選択できないであろう。



#### ②子息に譲るメリット・デメリット

##### ◎子息は事業を継ぐ意思があるのか。

先代が息子に事業を継がせたい理由は子孫に守ってもらいたい、生活（地位と収入）の安定、だから後を継いだ方が当人も幸せである。と思うからであろう。

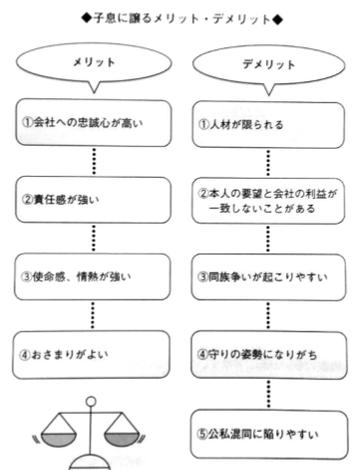
しかし当人の側が継ぐ意思がなく、他にやりたいことがあれば、後を継がせることは皆にとって幸せとはいえない。子息の意思をはっきり確認することが先決であろう。

##### ◎子息（身内）に譲るメリット

- ・会社に対する忠誠心が高い
- ・会社に対する責任感が強い
- ・事業に対する使命感、情熱が強い
- ・社員に納得されやすくおさまりがよい（世の中の大半の企業）

##### ◎子息（身内）に譲るデメリット

- ・人材に限られる
- ・後継者の要望と企業の利益が一致しないことがある（私利私欲が強い）
- ・同族の争いが起こりやすい
- ・先代が優れた経営者であった場合、消極的になる（業績を維持し守る）
- ・公私混同に陥りやすい



タナベ経営 事業継承 成功の原理原則より (次号へ続く)

vol.24

事業継承無くして企業存続なし、繁栄と衰亡の分岐点

事業継承の成功の原理原則

〈前編〉

# HG 加工

新性能で売れてます!

# イケメン 美男加工

# 抗菌剤

(使用するたびに抗菌力がアップする)

## KNM GROUP

かなめ流通グループ